

会 議 議 事 録

1 会議名	平成29年度 第1回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	平成29年7月24日（月曜日） 午後3時30分から午後5時まで
3 開催場所	ながおか市民防災センター 2階 研修室
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>高野礼子委員長、兒玉優子副委員長、池田浩委員、 櫻井真理委員、桃生鎮雄委員、高橋呈子委員、布川清行委員、 加藤秋子委員、河野瑞枝委員、榎園早苗委員、片桐直子委員、 成田涼委員、田邊香織委員、佐藤紫野委員、横澤勝之委員、 木村春美委員、ジョーンズ文穂委員、内藤純子委員、 長谷川直子委員</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>小池由佳准教授（新潟県立大学）</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：波多部長 子ども家庭課：大矢課長、神保課長補佐、五十嵐係長、 鷲頭係長、小林主査 子ども家庭センター：木村係長、郷係長 柿が丘学園：高森園長 保育課：大野課長、遠藤課長補佐、高杉係長、目黒係長 青少年育成課：丸山係長 双葉寮：林寮長</p>
5 欠席者名	諏方浩二委員
6 議題	<p>(1) 平成29年度長岡市子ども・子育て会議について</p> <p>(2) 平成29年度ワーキング部会について</p> <p>(3) 「子育て世代包括支援センター」について</p> <p>(4) アドバイザーからのまとめ</p>

7 会議結果の概要	<p>(1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1に基づき説明した。 <p>(2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.2、3、4に基づき説明した。 ・委員から資料No.2、3、4の内容について意見を述べてもらった。 <p>(3) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.5に基づき説明した。 ・委員から資料No.5の内容について意見を述べてもらった。 <p>(4) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーから資料No.2～5について御意見をいただいた。
8 会議内容	
<p>1. あいさつ (事務局)</p> <p>2. 議事 (1) 平成29年度長岡市子ども・子育て会議について (事務局) 資料No.1「平成29年度長岡市子ども・子育て会議について」に基づき説明 ※質疑なし</p> <p>3. 議事 (2) 平成29年度ワーキング部会について (事務局) 資料No.2「民営化した保育園のフォローアップ等の検討」ワーキング部会について事務局から説明 (委員) 民営化した保育園のフォローアップ等の検討のため、民営化した保育園に通っているお子さんの様子や、保護者からの意見を聴取するというので、アンケート内容について検討しましたが、最初に御提示いただいたアンケートの内容から、より具体的な質問内容に変わっていて、とても答えやすい内容になっていると思います。回収率はどのくらいかおわかりでしょうか。 (事務局) 回収率は69パーセントです。約7割の回収率を想定していましたが、おおよそ想定通りだったと感じています。 (委員) 自分の子どもも保育園に通っていたので、その時のことを思い出しながら、もしその園が民営化されたらどうなるのかなど、自分に置き換え、またどんな風に回答するか考えながら意見させていただきました。完成したアンケートは、十分にしても不十分にしてもいろいろな意見が書けるようになっていて、記名式だったり、先生に直接</p>	

提出するやり方だとなかなか思っている事が言えないけど、投函式にさせていただいた事で保護者の方も率直な意見が書けるようになってきていると思います。結果を楽しみにしています。

(委員)

ワーキング部会に参加させていただき、アンケートの一字一句は難しいと感じました。こちらが思っていることと、受け取り手の感じ方は、言葉のフレーズによっても捉え方が違ってくるので、事務局は大変だったと思います。

(アドバイザー)

ワーキング部会に参加させていただいて、誤解のない形で回答していただく事が大事だと思うので、いろいろ意見を言わせていただきました。本当に丁寧に作っていただいたとっておりますし、7割の回収率を予想していたということで、それに近い数字が返ってきたという事は、思いのある人達がしっかり書いてくださったんじゃないかと思います。保育園を利用されている保護者の方たちが忙しい中でアンケートを書いてくださった事は、プラスかマイナスかはわかりませんが、どちらの面でも書いてくださったということをしっかり受け止めていければと思います。アンケート内容はどのような形で公表されますでしょうか。

(事務局)

8月10日頃に成果品として業者から届く予定です。アンケートの目的は、民営化した保育園のフォローアップをするという事です。内容を見てどのような意見があったかを抜粋して委員の皆様には御提示できればと思っております。その上で、どのようにフォローアップしていくか、また、ほかの皆様にもどのように提示していくか一緒に考えさせていただきたいと思っております。

(事務局)

資料No.3「長岡市の療育・相談体制の検討」ワーキング部会について事務局から説明

(委員)

特別に支援が必要な子が年々増えている状況にあります。長岡市の場合は、子ども家庭センターのすこやか応援係の方が時折来園されて、的確なアドバイスをいただけるので大変ありがたく思っておりますが、現場の保育にあたっている職員が発達障害について専門性がないので、どうしたらいいでしょうと時々言われます。できたら頻繁に来ていただき、アドバイスをいただきながら保育を進めていけることが、保育の現場では非常に重要ではないかと考えております。また、この部会を通じて、いろいろ御意見をいただき、現場に繋げていければと思います。

(委員)

いろいろな会に参加させていただくと、長岡市以外の療育の現場で、4歳の子どもを対象に、子どもの遊んでいる様子を見ながら相談にのるというものがありました。少し見方を変えて支援に繋げるというものでしたが、なぜ4歳かというと、5歳では

就学に対して少し遅いのではないかという事と、3歳では早すぎるという事でした。そういった事を生かしてスムーズな就学に繋げていければと思っております。

(委員)

障害をもつ子どもの保護者の立場という事で参加させていただくことになっております。子どもに障害があり、特別な支援が必要だとわかった時の不安や、誰にどう相談したらいいのかわからなかったり、親が受け入れなければ子どもにとって適切な療育がされていかない事もあります。健診などでフォローが必要だと指摘され、不安になり泣きながら帰ったという保護者の話もよく聞いておりました。他県では、障害があるとわかった時に、成長段階に応じてこういうフォローがあるとかこういう支援があると説明を受けられるところもあります。長岡市はそこが弱く、何をどうしたらいいかは保護者同士のネットワークと、子ども家庭センターに足が向けばそこからフォローいただけますが、なかなかそこまで結びつくのが難しい方も多いため、そのあたりも含め、乳幼児期の一番不安な時から学校に上がるまで、いろいろなところで話し合いが進んでいいものになっていくといいなと思います。

(委員)

私の今23歳の子どもも障害があり、就学時健診の時に初めて言われてすごく悩んだという事がありました。今は、先ほど話があったように、4歳頃からいろいろな支援を受けたり、親が相談できる場もあるので、いいことだと思っております。

(事務局)

資料No.4「子どもの貧困対策についての検討」ワーキング部会について事務局から説明

(委員)

学校の立場からしますと、子どもの貧困につきましては正直頭を痛めております。人数的にもかなり多いですが、学校とせずかかと家庭の中にはなかなか入っていき、特別に要請があれば別ですが、経済的な面や、ひとり親で困っていらっしゃるとしても、直接的な援助がなかなか簡単にはできないというところがあります。例えば、私どもの学校では現状としては5年前の卒業生で、まだ給食費や教材費が支払われていないケースがあります。卒業した子どもが働いていて、それで返しているような状況もあります。借金取りのようなことを職員がしなければならないような状態が、現場では十何年も前からあります。学校単位ではなく市全体でこういったことが話し合われて、なんらかの策が出てくるのは本当にありがたいことなので、委員としても知恵を絞りたいと思っております。

(委員)

当校も準要保護が70人近くおります。準要保護の皆さんは収入が少なく、両親が揃っていても基準以下ということで、本当の意味での貧困なんだと思います。先ほどの学費不払いの中には、本当の意味での貧困ではないけれども、優先順位が違って

て学校に納めるお金がない方もいらっしゃいます。そうした中で、貧困という言葉だけが先に走ると、本当に光が当たらなければいけないところに当たらず、そうじゃないところにいつてしまうので、そのあたりは慎重にいきたいなと思いますし、貧困の連鎖を断ち切る事が学校の一つの役割だと思っております。長岡市では、全員に平等に、例えば東京フィルハーモニーの一流の演奏が聞けるなど準備して下さったりしているので、義務教育だからこその体験や学習支援をすることによって、教育の力をつけて連鎖を断ち切るという方向でも検討していけたらいいなと思います。

(委員)

保育園の方でも滞納が多々あります。保育園の場合は昨年の年収の状況から保育料が決まりますが、今は就労していないなどの状態ですと、例えば3万程度の保育料であっても1年2年と滞納するとかなりの金額になりますので、それを取り立てるのはなかなか難しくなってきます。ですが、保育園のもともとの目的である、保育を必要とするというところで、子どもを預かり、就労に集中していただくという支援をしっかりしていきたいと思います。貧困の連鎖を断ち切るため、経験や機会が不足するといった事のないように保育をしていければと思います。

(委員)

子どもの貧困について、7人に1人の子どもが貧困状態だという記事を読みました。先程の貧困の連鎖を断ち切るという話や、子ども食堂の話もありましたが、私たちが昨年まで取り組んできた「子育てあんしんの避難所」の検討の中で、賞味期限の切れた離乳食などの備蓄品をどうするかなどの話がありました。東京都ではそれを皆さんに配ったという記事を見ましたので、子ども食堂や貧困家庭への寄付などで利用するというのも一つの利用の仕方ではないかなと思います。寄付された食品を利用している団体もありますが、実際にいい方法でなされているのかというのも見なければいけないと思っています。スーパーなどの在庫問題も、改善されてはいますが、国が貧困対策に使用している量以上のものが捨てられているという状況ですので、そういった事も含めて考えていけたらと思います。

(委員)

子どもの貧困が多くあるという事はなんとなく知ってはいたものの、現状では周りにはいない、もしくは見えていなく、先生方の話を聞いて、長岡市にもそれだけの人数の貧困の子どもがいることを初めて知りました。貧困の連鎖を断ち切るのは、すごく難しい事だと感じます。先程話のあったような、本当の意味での貧困ではない家庭の方が、貧困家庭に対する支援をラッキーだと捉えているとしたら、その方にはどのように接すればいいのか、そういった家庭環境、価値観の親の元で育った子どもも、親と同じ考えになってしまうと、連鎖を断ち切るのは難しいことだと思いました。

(委員)

長岡市にも貧困の子どもがいると知り驚いています。自分の周りに貧困の方がいるという実感が無いので、自分と置き換えて考えることが難しいと思います。本当の意

味での貧困の方と、そうでない方の線引きはとても難しいことだと思いますが、制度としては、やはりどこかで線引きしないといけないなと感じました。

(委員)

貧困の連鎖について、教育には非常にお金がかかるため、貧困であるがために高等教育が受けられない、子どもも親に学校に行きたいと言えないといった状況で、その子どもが大人になって働き出した時に、教育の格差が収入の格差につながり、さらにその方に子どもがうまれて・・・というのがどんどん続いていくと聞いたことがあります。子ども食堂をやるようになったと先程話がありましたが、当事者のお子さんはどういった事を希望しているのか、将来どんな事をしたいかなどの気持ちをくんでいけるような場が増えていくといいなと思いますし、それに関しての支援ができるような体制が整うと、少しずついい方向に向かっていくのではないかと感じました。

(委員)

本当に支援が必要な人達は、自分から助けて下さいとなかなか言えず、本当の貧困ではない人達の方が、助けてと言ってしまうのではと思います。本当に支援が必要な人達に届くような仕組みができるといいなと思います。子どもが通っている学校で、就学援助の申請の話がありましたが、あまり申請がないと先生がおっしゃっていました。先程長岡市にも貧困の子どもが多いとの話があったので、私の子どもが通っている学校にもきっと何人かはいらっしゃるのだろうと思いますが、そういった方たちが申請できるようになってほしいと思いました。

(委員)

長岡市は妊婦健診の無料券が配付されるので、産まれるまではなんとかかなるけど、産まれてからの貧困の予備軍というのがあるのかなと、周りの話を聞いていて感じます。また、先ほどの療育の話もそうですが、本当に頼れる人がいないのかなと思います。大変な問題を抱えている子どもも実際にいる中で、こちらがこの子は発達に問題がある可能性があるかもしれないと思っていても、保護者の方が何にも思っていなかったり、そういう事への理解がないと何も前に進めないですし、私たちは、問題を抱えている子ども以外の子どもたちも守っていかなければならないので、その対応について苦慮しているところです。保護者の方にも支援をしていただけたらありがたいなと思っております。

4. 議事 (3)「子育て世代包括支援センター」について

(事務局)

資料No.5「子育て世代包括支援センター」について事務局から説明

(委員)

私は助産師として、「産後デイケアる～むままりラ」や産後訪問に携わらせていただいています。そこで思うところは、貧困の問題でもあったように優先順位がわからないというようなお母さんがいて、赤ちゃんのお洋服やタオルが真っ黒だったり薄く透

けているのに、車にかけのお金があったり、上のお子さんの塾通いなど、赤ちゃんのためではない、他のところにお金をかけているような状況があります。そのような中、寄り添い支援事業というものがあって、母推さんが育児のお手伝いをしてくださるといようなものができたので紹介させていただくと、母推さんが育児や家事のお手伝いをしてくださる事で、こんなところがダメだったんだな、といったお母さん自身の気付きもあると思うので、寄り添い支援はすごくいいものだなと感じています。「産後デイケアる～むままりラ」にお邪魔させていただくと、核家族が多いので、子育てをしてもちょっとした悩みを言えない、お友達には重すぎて言えないというようなことを、「ままりラ」に来ていただいて話すこともできるので、少しずつお母さん達が救われているのかなと感じました。長岡助産師会でも「ママサロン」というものを開いていて、「ままりラ」から紹介されて来てくださった方もいますし、ゆっくりと話を聞いてほしいんじゃないかなという方を紹介させていただく事もあり、連携がよくできていると思うので、これからも連携を深めていきたいと思っております。

5. 議事 (4) アドバイザーからのまとめ (アドバイザー)

今年度は三つのワーキング部会が立ち上がり、子育て世代包括支援センターについての話もありましたが、気付いたことをお話させていただきたいと思います。

一点目の、「民営化した保育園のフォローアップ等の検討ワーキング」について、私もワーキングに参加させていただきましたが、私立の保育園の社会福祉法人さんが公立の保育園を引き受けるということは、なかなか難しい面もあるんだろうなという風に思います。社会福祉法人の皆さんは、こういういった保育をやりたいという思いで保育園を作っておられます。それを一から立ちあげておられる方たちが非常に多いので、そういう思いで展開されてきた保育と、公立の中である程度統一化された保育をされてきたところを引き受けて、自分たちの保育をそのとおりに展開させるという難しさ、ゼロから作るのではなくて既にあるものを引き受けてやっていかななくてはならない難しさがあるのではないかと感じております。そういう意味では各園のフォローアップが行政の役割だとおっしゃったのは非常に大事な視点であって、そういうところの難しさも踏まえながらどう民営化を進めていくかというのは、これからどうしても避けられないことだと思うので、ぜひフォローをお願いしたいと思います。特に今回アンケートにつきましては、「良かった」という事もちゃんと聞いてますので、どういう点が良かったかというところもきちんとフィードバックしていただきたいと思います。

どうしても悪くなった所や、課題の方を何とかしなければという風に思いがちですが、引き受けられた方達からすれば、自分達の実践がこういう風に評価してくださったんだというのもきちんとお伝えする事が大事なと思いますので、両者からフォローしていただければと思います。その中で、「悪くなった」、「不十分だった」ところがどういう原因だったのかというのも丁寧に見ていただければと思います。公立から私立に

変わったことの慣れなさ故の保護者側の受け止めが追いついていないという事なのか、そもそもの保育内容のところがもしかしたら課題であるということもあるかもしれないので、そこは丁寧にまとめていただいた方がいいと思っています。

二点目の、「長岡市の療育相談体制の検討ワーキング部会」についてですが、就学前の特別な支援が必要なお子さんについて、今まで無かったものが今回初めて取り込まれるというのは本当に大きな意味があると思います。保育園や幼稚園の先生方は、どこへ行ってもこの問題でご苦労されているのではないかなと思います。今年の保育園の大会で、私は特別な支援を必要とするお子さんの部会に参加しましたが、後で聞いたらどの年齢の部会も最終的にはその話題だったとの事です。それぞれの年齢のところで、どのようなフォローやサポートをすればいいのかという事が、今就学前の現場で大きな課題になっているのだと思います。その中で、相談体制を充実させていただくと同時にぜひお願いしたいのは、療育の場で療育を提供する事も大事ですが、先程話の出た、問題がある可能性のあるお子さん達を支える場が保育園や幼稚園などの現場となると、日々お子さん達と接しておられる先生方のスキルアップは避けられず、日々の中でお子さん達に直接働きかける事のできる方たちがスキルアップしてお子さん達に関わることで、お子さんが変わっていく中での、保護者への働きかけ、アプローチが大事になってきていると思います。保護者の方が、自分のお子さんについて「どうかな」という気持ちを受け止めていくのは時間がかかります。どうしてもそこは親は受け止めたくない、認めたくないという思いもきっとおありになると思います。ただ、それを待っていると、受け止めてもらってからでないとできないとなると、子どもはどんどん育っていってしまいますので、やはり日々の保育の中でできる事を専門の方にアドバイスいただきながら、どういう工夫をすればこの子には伝わりやすいかななどという事を丁寧にアドバイスいただくと現場の先生も助かると思いますし、就学後のところにもつながっていくのではないかなと思っています。

三点目の「子どもの貧困についてワーキング部会」について、みなさんのご意見を聞いていて、子どもの貧困とは何なのかというところをもう一度みなさんできちんと勉強した方がいいなというのが正直な感想です。言葉の方が先行してしまっているところがあり、先程委員の小学校の先生、中学校の先生のお二方のご意見にもありましたけども、現場にいると見えておられるものがあるので、それは結局どういう事なのかという事を皆さんで共有してからでないと、貧困や生活保護などはすごく批判を受けやすいところで、貧困ではない家庭が裕福に暮らしているかというところでもない時代になってきている中で、必要な人に必要なものを届けると同時に、必要な人が見えにくいというのがこの課題の大きなテーマです。新潟市の状況からいうと、今15か所の子ども食堂ができていますが、方向性がはっきり分かれてきています。一つは、誰がきてもいいといった所で、その中で本当に困っている人を拾っていけるんじゃないかという思いでされている所と、もう最初から対象を絞って、本当に困っている人をターゲットにした方がいいんじゃないかという所で、どちらのアプローチが正しい

とか正しくないという事ではないけど、それぐらい難しさがあるところでもあります。それくらい見えないし気付かないし、正しい理解をしていないと、違う施策を打ってしまい、逆に追い込んでしまったりという事になりかねない課題なので、一緒に皆さんと勉強しながら、見えないものを「見える化」することによって、子どもの育ちをきちんと支えていく事ができればなと思っております。

子育て世代包括支援センターについては、新しいものを特別に立ち上げなくても、今までされていたものをきちんと繋ぎ合わせれば、長岡市子育て世代包括支援センターになったという事かなと思いついて見せていただきました。子育て世代包括支援センターの中身については皆さん経験値がおありなので、これからも展開されていくと思いますが、次の課題はこちらの関係機関とのつながりになると思います。

母子保健としてというのは就学前を見ていきますが、就学後は学校やその他主な関係機関との連携をどう評価していく事ができるかというのが課題になってくるのではないかなと思いついて見せていただきました。

いずれにしても先ほどの委員の御発言にあったような包括支援センターで出てきた複雑な家庭状況なども、どう次に対応していくのか、そういった事も課題になってくると思いますのでぜひ御検討いただければと思います。

6. あいさつ
(事務局)

(出席委員の署名欄)

上記会議議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名をする。

長岡市子ども・子育て会議 委員長

印

7. 会議資料 別添のとおり